

アコと人生…この人にインタビュー《第10回=その1=》「松川 正則さん」

今回は 55AC（ゴーゴーアコーディオンサークル）の会長で、千葉県視覚障害者の生活と権利を守る会の役員もなさっている松川正則さんに、レッスンの後アコと人生についてお話を伺いました。

昭和 31 年生まれの 54 歳です。東京都墨田区で生まれ、すぐ葛飾区「四つ木」に移り、小学 5 年生までは普通の小学校に通いますが弱視のため、以降は盲学校（現在は特別支援学校）へ通うことになります。現在、千葉県で治療院を開業されています。取材には、松川さんを紹介して下さったサークル仲間の佐々木すみえさんにも同席いただきました。（2 回に分けて紹介します）

（以下、🐻 は松川さん、「◎」は佐々木さんまたは取材者の言葉です）

◎始めまして、松川さんは視覚障害者ということで、私達とは違った環境の中で練習されているので、いろいろと参考になる話を伺うことができるのではと楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。早速ですがアコーディオンとの出会いはいつの頃ですか。

◎55 アコの発表会で上の娘さんのピアノとアンサンブルしたことありましたよね。

🐻 そうですね 40 くらいのときでしたか、アコーディオンを始めたのは 34 歳のときでした。まだ病院勤務のときです。趣味でギターをやっていたんですけど、指先で弦をはじくので針灸の仕事にはまずいだろうと思ひ弾かなくなりました。

🐻 そんな時、養護学校の寄宿舎教諭だった家内が生徒の前で弾こうとも思ったのでしょうか、学校から借りていた 24 ペースの壊れかかったアコーディオンが家にあったのです。それを持って音楽センター初級土曜教室へ入りました。

◎今日も新しい曲をやったけど、先生が階名を言いながらやるとすぐ弾けちゃう。A とか練習番号あるでしょ、私なんか A は何処だっけて見ちゃうけど松川さんは“はい”って弾いちゃう。

🐻 皆さんは音符を見ながら指を捜しているじゃないですか、私は音符って関係ないんですよ。覚え方って言うんでしょうかね。

◎先生が A からやりましようって、その小節の場所はどやっつかむんですか。

🐻 あれはメロディーラインで判断します。だから音を出してもらえばつかめます。

◎今日、先生がここは分散和音だから簡単だねっていったでしょ。それしか言わないのにわかるのはどうして。

🐻 あれはね、ギターをやっていたんでコードから頭に入るっていうんですかね。だから、アコーディオンのコードっていうのは親しみやすかったです。ベースボタンそのものは最初から「えっ」、なんて便利な仕組みなんだろうくらいの感覚でした。

🐻 間違っているといわれたところは、コードをぎゅっと押して音を出す。ギターでバララーンと弾くように鳴らしてみても修正します。だから鍵盤という意識は今でもないです。どちらかというコードっていう感覚で覚えています。

◎ギターは習ったのですか。

🐻 コードブックを買って自分でやっていた。習うのはアコーディオンが初めてです。

◎今取り組んでいる「きらきら星変奏曲」は、全部弾くと 15 分くらい、もっと長いかなあ、でもちゃんと覚えちゃうので先生も頭が下がるっていう以上に敬服するって言っている。最初は CD か何か聴いて覚えたのですか。

🐻 そうですね、いくつか聴いてこれがいいなってももの譜面で講師に見てもらっています。工夫はしていますね、よく佐々木さんが“わあ、この譜面一杯音符がある”って言うでしょう。

◎今日も言っちゃった。

🐻 私には一杯あるとか少ないとか関係ないんです。弾いてみて弾けなければ難しいってなる。でも、一度にはおぼえられないけれど、一週間にここからここまで頭に記憶する。そこを覚えて翌週教室に行けば合奏はみ

んなについていける。そうやって1曲記憶するのに1ヶ月くらい掛かる。最初からこれ無理とかそういう発想は全然ないですね。

◎私は若いときから一生懸命覚えてきたけど忘れちゃう。覚え方ありますか。

🐻 覚え方というよりも、最初に「天使の飛行」を覚えたとき三連符に苦労したけど、あの曲だけはどういうわけか今でも残っている。あの時は一生懸命覚えようとしたんでしょね、きっと。その後の曲はそんなに一生懸命じゃなかったのかもしれないですね。(笑い)「天使の飛行」は自分でも気に入っていました。

🐻 今「きらきら星変奏曲」にチャレンジしていますけど、一番何処が難しいかなっていう所から入っています。まだ通して弾けませんけど、やっぱり最後のバリエーション“トレモロ”が出てくるところ。とっても難しいというか、あの譜面を作った人が「ここはこの指を使って演奏しなさいよ」って指示はないんだけど、そこでそれをやらせようとしているんじゃないかなあと、そんな譜面なんですよ。小指を使うんですね、簡単なトレモロだと、2(人差し指)と3(中指)でやるでしょ。そうじゃなくて小指と薬指でパラパラパンとやるので、今は無理だけだと1年あるので今はそれを重点に練習しています。

指って動くようになるみたいなんですよ、このトレーニングは音楽っていうよりも体育会系のトレーニングですね。

◎治療院の仕事とアコーディオンの練習で指が疲れませんか。

🐻 マッサージの指の使い方っていうのはそれほど力は必要としない。アコーディオンのときは指の使い方が違いますね。

治療の場合はバランスです。力を入れるときに、この指に自分の体重が乗るくらいのバランスで押しているんです。そのとき指の力はほとんど使っていないんです。支点の真上に体重が来るように体の位置を常に変えながら治療しているので、指そのものは使わないですね。

むしろアコーディオンの方が細かい動きな

どは、ただ空中で動かすには動くけど鍵盤を押すと何かちょっと力が掛からないんですね。そういう感じでアコーディオンの方が指の力は使うかもしれないですね。

ただ、アコーディオンの場合は左肩がね、ペローの関係で関節が疲れるんです。下手だからかもしれないけど、ペローは腕だけじゃなくて体全体を使うので指先の動きと違って疲れますね。

◎山にも登るし、アコーディオン担いでいってキャンプもするでしょ、それはどうしてできちゃうの。(写真は取材様子、右が松川さん)



🐻 それはね、車椅子登山だから視覚障害者も楽なコース取るので大丈夫なんですよ。

◎視覚障害者だけで行くんですか

🐻 車椅子っていうのは肢体不自由の方だから未だキャンプまではいかない。日帰り登山です。障害者は大体50人位に対して山岳会の人たちが200人位、当日ボランティアで来るんです。

登山道を1回チェックして車椅子でも通れるルートを選ぶんです。それでも、4人の男性が車椅子をグーと持ち上げて通るところもある登山ですけど、そういうコースは視覚障害者にとっても比較的楽なコースなんです。傾斜もそんなにないので楽器を担いで歩いて大丈夫です。ですから山の上で楽しむってことは出来ますね。

=次号へ続く=

※次号では、視覚障害者の声が私達の生活の中で役に立っていること。松川さんの夢など語ります。
《文責：乙津》